

令和7年3月13日(木)

14:00～

令和6年度 学校関係者評価委員会

司会 主幹教諭 西原 洋介

1. はじめのあいさつ(司会)
2. 自己紹介
3. 学校関係者評価委員会の趣旨説明(園長)
4. 学校取り組み説明(園長)
 - (1) 幼稚園経営説明
 - (2) 学校評価
5. 意見交換・懇談
6. お礼・おわりのあいさつ(園長)

津山幼稚園学校評価について

(「幼稚園における学校評価ガイドライン 文部科学省」に沿って評価)

1) 幼稚園の自己評価

幼稚園の教育目標を実現するための教育活動が適切に取り組まれたかどうかについて、評価項目に基づいて教職員自身が評価をする。
課題については改善策を練り、園の自己評価報告書を纏める。

2) 関係者評価

学校関係者(保護者や学校役員)で組織し、自己評価報告書を評価し自己評価の客観性・透明性を高める。(本会)

3) 外部評価(第三者評価)

学校運営の改善による教育水準の向上のため、学校関係者評価の結果及び今後の改善方策について、幼児教育や学校のマネジメント等について専門性を有する者(小学校校長)に専門的視点からの評価を行う。

学校（自己）評価（令和6年度）

1・本園の教育目標

- ① 心身ともに逞しい子どもの育成
- ② おおらかで、明るい子どもの育成
- ③ 知性豊かで、賢い子どもの育成

〒901-0301

・沖縄県糸満市字阿波根 746 番地

・学校法人 津山学園

・認定こども園 津山幼稚園

・TEL 098-994-6714

2・令和5年度主要目標

- 1・本園教育目標の達成に努力する。
- 2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き・リズム・言葉感覚）を加味し、豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。
- 3・令和5年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。
- 4・幼児の発達に寄り添い、専門・関係機関等と連携しながら指導に当たる。
- 5・園教育目標の実現に向けて職員間で相互理解に努め、調整・連携して職務に取り組む。
- 6・指導力の向上を目指して、内・外研修に参加し、幼児教育に対する専門性を高める。

3・評価項目の取組状況及び達成度

（達成度 4：十分達成、3：ほぼ達成、2：やや達成していない、1：達成していない）

評価項目	取組状況（○成果 ▲課題）	達成度
1・本園教育目標の達成に努力する。	○行事や日々の活動で園が目指している子どもの姿を描きながら保育に携わっている。 ▲新型コロナウイルス感染症が5類移行により、日々の活動や行事等の見直しが急に行われ、種々の変更をよぎなくされ、多少の影響があった。	3.5
2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き、リズム、言語感覚）を加味して豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。	○本園の特色を生かすため、総合幼児教育研究会の研究大会へ職員派遣して活動の充実を図った。 ▲年間指導計画を定期的に見直し、その際、「特色ある活動」への理解を深めたい。	3.5
3・令和5年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。	○毎日、保育日誌にて一日の振り返りを行って保育の充実に努めている。 ▲子どもの目線に立った環境構成や自然に触れ合う活動を増やしていきたい。 ▲コロナ後の保育行事計画の策定が必要である。	3.4
4・幼児の発達に寄り添い、専門・関係機関等と連携しながら指導に当たる。	○公的機関の心理士を活用して園児の理解を深めるとともに、保護者との信頼関係を築きながら保育に当たった。 ○毎日のコミュニケーションを大事にし、子どもたち個々の性格や特性の理解を深めることが出来た。 ○保護者と園児の様子を共有を通して連携が深まった。 ○保護者からの意見を聞く際は思いを受け止め聞くことが出来た。 ▲保護者の要望等に対して教育的な意義付けができるものは対応することができたが、応えることができないこともあった。▲新型コロナウイルス感染症が5類移行により、日々の活動や行事等の見直しが急に行われ、種々の変更をよぎなくされ、多少の影響があった。	3.7

5・園教育目標の実現に向けて職員間で相互理解に努め、調整・連携して職務に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○園の組織の一員として、仕事をするうえで報・連・相を行うことが出来た。 ○情報配信アプリを活用して行事等の情報共有を行うことにより連携が容易になり、円滑な実施に繋がった。 ▲合同で保育を行った際は、遊ぶ時のルールや玩具の使い方などを見直す必要がある。 	3.7
6・指導力の向上を目指して、内外研修に参加し、幼児教育に対する専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館や書店で専門書を入手して自己研鑽に取り組んでいる。 ○今年度は公的な色々な研修に参加出来て有意義であった。 ○公開保育に積極的に参加して、保育の質を高めていきたい。 ▲公開保育を行うことで、環境面の改善や保育計画の評価・反省、よりよい保育につながると思う。 ▲園内外の保育者の保育をもっと知りたい。多くの研修会に足を運びたい。 ▲園独自の研修の充実をさせたい。 	3.2

4・自己評価の総合的な評価結果

<p>園の教育目標達成を目指して全職員が熱心に保育に取り組んだ。今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、幼稚園教育要領に則りながら、本園の特色を活かした活動を充実させることができた。一方、昨年度と計画を大きく変更する場面もあり、職員の負担は大きかった。日常の保育では園児同士の関わり合いを増やしたり、異年齢の活動を増やしたりすることで、園児の大きな成長に繋がった。保育の環境構成や園の周りの自然環境を活用した保育にも目を向けて活動を広げる取り組みを実施し行事に関しては、多くの保護者が参加して実施することができたことは有意義であった。全体として保護者の多大な協力も得ながら概ね目標の達成を図ることができた。今年度の課題を踏まえ具体的な改善方法についての考察、教師間での共通理解を図っていきたい。</p>	3.5
---	-----

5・今年度の課題と具体的改善方法

課題	具体的な改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる行動制限が無くなった状況下での本園の特色ある教育の実施に向けて、全職員共通理解の下計画を見直し、保育を実施していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・内外研修会や研究会に参加し、教育の専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のアンケートで他園の公開保育への参加、自らのスキルアップするための研修への参加への高い意欲が覗える。今年度は3名を県外研修に派遣し、園内研修へと繋げることができた。次年度も研修への参加を奨励していくとともに派遣についても計画的に実施していく。 ・園内でのOJTが可能になる仕組み作りを推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・協働を円滑に行うための情報の共有方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報管理、伝達ツールの活用・充実を図る。職員会議、管理者会議の提案・確認内容が集約され一本化される環境を構築する。 ・職員室の環境整備をしてより連携を強化できる環境を推進する。

6・財務状況・その他

<ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士による外部監査、監事による内部監査を行い、理事会にて適正に管理・運用しているとの承認を得ています。

令和6年度 学校評価 関係者評価委員会纏め

1. 日時 令和7年3月13日(木)
2. 参加者
 - ・ 父母会長 久保 祐美子
 - ・ 理事長 津嘉山 毅
 - ・ 評議員 上原 寿美(欠席)
 - ・ 評議員 小柳津 綾
 - ・ 監 事 島袋盛一
 - ・ 園長 新城貴子
 - ・ 主幹 西原洋介
3. 会順(司会 主幹教諭 西原 洋介)
 - (1) はじめのあいさつ(司会)
 - (2) 自己紹介
 - (3) 学校関係者評価委員会の趣旨説明(園長)
 - (4) 幼稚園経営説明(園長)
 - (5) 自己評価について報告(園長)
 - (6) 意見交換・懇談
 - (8) お礼・おわりのあいさつ(園長)

4. 意見・感想

[意見・感想]

・父母会長として園の行事に関わり、先生方がどんなに一生懸命子どもたちのために頑張っているかがよく分かりました。行事を開催するにあたり、舞台設備の整った大ホールを借用するためには、園が抽選会に参加してその可否によって行事の開催日時が変更になることは十分理解できます。しかし、当園の保護者は県外出身者が多く、祖父母を招く際にそれが直近だと航空便の予約が厳しかったり、運賃が高くなったりして不便をかけてしまうこととなります。そこで、変更がある際は、早めに周知することを望みます。また、途中経過をこまめに説明することによって、更に園への信頼も高まると思います。

・先生方の研修意欲に応えるために、土曜日に研修会を実施し、家庭保育の協力依頼をしている園もあります。津山幼稚園でも、この方法を採用してはどうでしょうか。

(回答)

・当園は、保護者の勤務状況に合わせて土曜日の保育受け入れを行っているので、研修のために家庭保育を実施することは保護者に負担をかけることに繋がるので、今のところ予定はしていません。今後、シフトの工夫により可能かどうかは、検討していきます。

令和6年度 学校評価 外部評価委員会纏め

- 1, 日時 令和7年3月13日(木)
- 2, 参加者
- ・学識経験者 山田 浩也(糸満市立兼城小学校長)
 - ・理事長 津嘉山毅
 - ・園長 新城貴子
 - ・主幹 西原洋介

3. 会順 (司会 主幹教諭 西原 洋介)

- (1) はじめのあいさつ(司会)
- (2) 自己紹介
- (3) 学校評価外部委員会の趣旨説明(園長)
- (4) 幼稚園取り組み説明(園長)
 - ・幼稚園経営説明
 - ・学校関係者評価委員会の纏めについて報告
- (5) 意見交換・懇談
- (6) お礼・おわりのあいさつ(園長)

4. 意見・感想

- ・教育目標の達成に向けて、子どもや保護者のニーズを把握しながらしっかり取り組まれています。
- ・保育と研修においては、そのバランスを保つためにご苦労されていることが覗えます。タブレット等を駆使しながら、オンデマンド、オンラインでの研修を充実させ、幼稚園の教育後に受講する等の研修のあり方を見直ししてはいかがでしょうか。
- ・職員の連携がスムーズにしていることはとても大切なことです。職員が一人で抱え込まないことが重要で、未然防止や早期解決に向けて組織的な対応としていくことが肝要です。報・連・相をしっかり行うことにより、保護者との信頼関係の構築や園児の安全安心に繋がっていきます。今後も、互いに意識を高め合って園教育を推進してください。